

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『協同による地域循環共生圏の再生』

活動団体の活動地域：八頭町、鳥取市

活動団体名：ワーカーズコープさんいんみらい

中間支援主体名：(株)市民エネルギーとっとり

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

- ・活動団体の現状と課題や活動団体が地域で果たしたい中長期的な役割・ニーズを把握し、地域の現状と課題とを絡めて、俯瞰的な立場で、環境・経済・社会面のバランスのとれた地域の持続可能性を伸ばす取り組みを加速するための具体的な支援（特に課題把握、人材を発掘、対話創出、変革促進、資源連結、問題解決提示・事業化支援）やコーディネートができるようになる。
- ・社会福祉や協同労働分野の仕事づくりについて学び、理解を深め、地域資源循環型の事業や拠点・仕事づくりを強みにしていく。
- ・それによって、地域づくりの頼られる相談役や活動おこしや事業化の後押し役になる

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

- ・活動団体の現状と課題や、地域で果たしたい中長期的な役割・ニーズを踏まえて支援を実施した。ありがたい地域の姿と打ち手をつなぐ視点で、ステークホルダーの巻き込みや、ローカルSDGs事業の検討サポート、コーディネートを行った。環境・経済・社会面のバランスのとれた、地域の持続可能性を伸ばす取り組みを加速するための具体的な支援を行っていく。
→ 達成度：60%
- ・協同労働分野の仕事づくりについて、活動団体や他地域の多様な事例等を学び、理解を深めた。協同労働の強みやネットワークをいかした資源連結やプロセス支援を実施した。地域ステークホルダーとの協同による資源循環型の事業、仕事づくり・居場所づくりを支援していく。→ 達成度 50%
- ・活動団体との対話やコアメンバーとの意見出しを重ね「ありがたい地域の姿」とプラットフォームの体制、実際の打ち手（事業・取組）が整理されつつある。事業性を備えたローカル SDGs 事業づくりや継続する仕組みづくりを意識し、活動おこしや事業化を後押ししていく。→ 達成度 30%

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	◎	活動団体の当たり前（強み、変革が必要な面など）を言語化することで事業の円滑化、巻き込む方への共有が進むと見こんだ	◎	協同労働の特徴や強みの共有により、ありがたい姿への共通理解が進み、ビジョンづくりの対話が進んだ。ホンモロコ養殖、大豆に関する課題や協同で取り組む意義の整理を進めている
	意味づける	◎		◎	
	癒しとなる				
	見通しをつける	◎	ビジョンづくりのイメージがあいまいであったり、ホンモロコ事業等の展開イメージが定まらない様子	◎	仮ビジョンや類似事例を提示。ホンモロコ養殖の最盛期や先進地の情報を共有し見通しをつけていった
プロセス支援	話を聞く	◎	共通理解や信頼関係がととても重要ととらえている	◎	対話を踏まえ提案を重ねた
	場を開く	○	対話と、コアメンバーとの現状・課題共有が重要	○	コアメンバー会議の進行が一時停滞。協同労働推進ネットでも共有、アイディアだしし、取組を具体化
	喝を入れる			○	ビジョンづくりの停滞、事業づくりの方向が定まらない時期に実施
	現在地を確認する	◎	活動主体の強み・弱み、資源や変化、コアメンバーの共通理解や論点の変化を確認しつつ進行するため	◎	左記の通り実施
資源連結	新しい人を入れる	◎	地域の協力者、協同労働の仲間の目線が重要。活動主体の強みを伸ばし弱みを補い、相乗効果を引き出す	◎	活動主体や場の状態、タイミングに応じて実施
	事例を紹介する	◎	ありがたい地域の姿と打ち手をつなぎ、事業・取組の具体化への確信を強める重要なツール	◎	活動主体や場の状態、タイミングに応じて実施
	引き出す	◎	確信と不安が入り混じる中で、本音を踏まえて打ち手をとっていく	◎	活動主体や場の状態、タイミングに応じて実施
	拡散する			○	
問題解決提示	文字や図に落とす	◎	もやもやした状態や考えを、いったん文字や図、表にし理解の共通化や本音を引き出すツール	◎	ホンモロコ事業の課題整理、ありがたい姿と打ち手をつなぐロジックモデル等を活用
	問いを立てる	◎	主体的に事業の見通しや課題への対策を考えてもらう支援策	○	活動団体との対話や、コアメンバー会議で用いた。問いの立て方に工夫が必要
	会議を進行する	○	考えを持ち寄り共有しながら進行	△	本音をひきだす場としては消化不良
	落としどころを探る			○	ビジョンづくり、ローカルSDGs事業の方向が定まった
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

FEC自給圏と自然と共生する持続可能なふるさとを実現するため、食べるもの・エネルギー・ケア、なりわいの地産地消 = “くらしの地産地消”を实践する担い手や拠点を増やし、協同し頼りあい、誰もが安心して暮らし続けられる地域共生圏づくりに貢献する。

- ・ 社会福祉や協同労働分野の地域共生・資源循環型の仕事・居場所づくり、体制構築の支援を通して、公正な移行の受け皿を増やしていく。
 - ・ 他地域の中間支援主体と連携し、農福エネ連携の拠点を増やすことに貢献していく。
- 地域拠点では、協働や共有の関係が深まり、一次産業の担い手や地域の企業が元気になり、多様な仕事や居場所が生まれ、経済が回り共感の輪が広がっている姿を目指す。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
活動団体が地域で果たしたい中長期的な役割やニーズをふまえて、団体、地域、ステークホルダーの強みを引き出し、持続可能性を加速する支援やコーディネートができるようになる。	・ 仲間を増やし、事業・取組の具体化を支援 ：本音を引き出し、資源発掘や課題解決の好循環が生まれるプラットフォーム・体制づくりを支援 ・ 体制の重層的な関係性、機能や役割の整理を促す（必要によりビジョンを更新）	変革促進 プロセス支援 資源連結
協同労働による地域資源循環型の事業や拠点・仕事づくりを具体的に支援できている	・ 地域のステークホルダーとの協同による事業・取組を後押しし、取組が続き事業が生まれる仕組みづくりを支援する（人づくり、お金が回るしくみなど相談）	プロセス支援 資源連結 問題解決提示

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

- ・ 協同労働×地域づくりの他地域の事例を鳥取で共有、地域循環共生圏事業の他地域の好事例を、鳥取で発信する機会、
- ・ 農福エネ連携の実践者との情報交流などの連携、協力